



R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU  
**魚津ロータリークラブ 会報誌**  
2007 - 2008 年度 RI 会長 ウィルフッドJ.ウィルキンソン  
魚津 R.C 会長 谷川 文紹

2008年 4月 11日

**第 262 回 例会報告**

**ゲスト並びにビジター紹介** なし

**誕生祝**



池上 君



谷川 君



辻 君

4月 15日 池上 嘉昭 君夫人 真知子様

56 歳になります。元気が何よりも毎日過ごしております。本日はありがとうございました。

4月 27日 谷川 文紹 君夫人 薫子様

最近“食べるダイエット”にはまっております。ただし今までは主観的な眼と客観的な眼とのギャップに気付いておりませんでした。この頃はそのことに気付いたようです。これからも楽しく過ごしたいと思っております。

4月 30日 辻 浩 君夫人 京子様

57 歳になります。毎日元気に過ごしております。そして楽しい夫婦喧嘩をしております。これからも楽しい喧嘩で過ごしたいと思っております。

**会長挨拶**

四月はいろいろな行事ごとが重なっております。そして、この月は三日と天候が続かなく非常に不安定な時期で、身体的にも十分気をつけてください。

報告事業として、魚津青年会議所の総会が過日開催され出席しました。次に当クラブの釜山 R C 訪問には 15 名の参加申込がありまだ若干余裕がありますので希望の方は申し込みください。

また今後、屋外奉仕活動の予定もありますので協力願います。そして 次年度の活動もすでに始まっており、5月 11 日には地区協議会も開催されますので、参加登録を願います。

**幹事報告**

魚津しんきろうマラソン実行委員会 大会役員委嘱について

青少年育成魚津市民会議 H20 年度参加団体確認について

**出席報告** 32 名 88.88% 第 2625 回 94.44% 97.22%に修正

**ニコニコボックス** なし

**委員会報告**

**環境保全委員会** 現在“魚津の史跡と観光マップ”を 3~4,000 部程度作成する予定で、出来上がり次第配布や設置などに協力と、また 何点か不明な部分がありその件の協力も願います。

## 卓 話

かたち 坪井 孝博 君



私の出身地である三重県熊野市は、いわゆる陸の孤島であるため、以前はかなりの自然が残されていました。子供の頃に覚えていることは、身近な生き物をとっていることがほとんどです。その中でも、形態的に最も興味深く思っていたのがクワガタムシでした。

大型のノコギリクワガタは、カブトムシとほぼ同じ標高の場所で認められます。これは両者の大アゴあるいは角の形が、なぜあのかたちになっているかの答えです。環境の似ているところで発生する両者が、同じ食物を得るには戦わなくてはなりません。

ノコギリの大アゴ形態は、カブトの首にあたる部分に入り込み、狭み易いカたちになっています。また、カブトの角は、クワガタの体の下に入り込みひっくり返しやすくなっています。つまり、繁殖の場である樹液をめぐる争いで、すこしでもカブトに抵抗できるカたちに進化させたのがノコギリの大アゴなのです。しかし、一般的に、多くのクワガタは発生のピークをずらしたり、樹液に集まる時間帯をずらしたり、あるいはカブトのいない場所へ適応したりして生存しています。このように、クワガタは様々な環境に応じて、すみわけをし、それぞれカたちが異なります。日本本土だけでも20種以上のクワガタがいて、しかも、同じ種でもその環境により、大きさに伴うカたちの違い、

色の違いがあります。ノコギリクワガタなどにみられるカたちは進化の結果、分化してきたと考えられます。現在では目にみえる形態レベルの進化は主に正の自然選択で進み、分子レベルの進化は主に中立な進化をしているという考え方が一般的であります。さらに、近年、親が獲得した適応形態は子に受け継がれる可能性も指摘されています。これらの説をふまえて今後も観察していく必要があります。

大学院での専攻は歯科薬理学と歯周病学でしたが、やがて、歯のカたちに興味をもちました。なぜ、この場所に、この時期に、このようなカたちの歯が発生するのか。そこで思い出したのがクワガタの大アゴのカたちです。

そこで、昆虫の発生遺伝子の研究法をもとに、歯の発生に関わる遺伝子を調べていくことにしました。その結果、歯の再生に関わる発見をしたのですが、生物というものは体全体のすべての組織があって、初めてお互いに作用しあい成長するものであります。遺伝子を調べるより、実際の自然環境を調査をしてみたいと考えました。以来、昆虫のみならず、植物、魚類、ヒトにいたるまで、その生活環境や自然条件によって作られた体のカたちについて観察を続けています。富山への移住と開業は、太平洋側とは異なる多くのサンプルを観察できるという点で非常に有意義であります。

富山において、興味深いものの1つが、富山県人のアゴの骨のカたちです。上顎や下顎に見られる骨の出っ張りが愛知、三重、岐阜県人よりも圧倒的に大きく、たくさん認められます。東北でも太平洋側ではその傾向は認められない。

富山県で多いといわれるうつ病との関連性があるのか、努力気質によるのか、あるいはフォッサマグナを境とした遺伝的なものなどの違いなのか、大変面白い現象です。